

## いろいろな気持ち

御津南部小・4 鳥居 敬太

ぼくは、今、生活作文を書いている。だが、よい考えが、全然思いうかばない。前にあつたことを思い返しても、前の気持ちが分からない。全然分らない。気持ちが分からず、もやもやする。今のぼくの気持ちは、いろいろなきたない、まざった色のようなのだ。

このように、気持ちには、色があると思う。今の気持ちとはぎやくに、明るいとも楽しい時の色は、黄色やオレンジの明るい色。そして、何かむ中になっている時は、赤色の気持ち。そして、悲しい時は、なみだのような水色。くやしい時は、黒色だ。

まず、ぼくは、自分が黄色やオレンジの気持ちになるのはどんな時かを考えてみた。すぐに思いつくのが、友達と遊んでいる時だ。学校の休み時間には、いっしょに遊んだり、好きな話をしたりする。家族には伝わらない、ゲームの話やカードゲームの話を友達と話するのは、すごく楽しい。休みの日にも友達と遊ぶことがある。好きなゲームやカードを持ちよって遊んだり、いっしょにおやつを食べたりしている時、あつという間に時間が過ぎてしまう。黄色やオレンジの気持ちの時には、時間が短く感じてしまう。

次に、ぼくは、む中になる赤色の気持ちになるのはどんな時かを考えてみた。そして、思いついたのは、サッカーをしている時だ。二年生の終わりごろから始めたサッカーも、もう一年半続いている。始めたばかりの時は、パスもシュートもドリブルもうまくいかなか

ったけど、友達やコーチから、くわしく、いろいろと教えてもらい、少しずつうまくなってきたのが実感できた。すると、だんだんと試合に出られるようになり、ぼくは、とてもうれしい気持ちになった。だけど、チームメイトにも、ちがうチームにも、ぼくよりも強い人がたくさんいる。だから、もつともつと練習して、うまくなりたいという気持ちが強くなった。うまくなるために、ぼくは夏休みにたくさん練習をした。夕方には、ほぼ毎日公園に行つて、たくさんパスやシュート、ドリブルの練習をした。練習を続けていくうちに、苦手だった左足でボールをけられるようになったり、シュート力が上がったたり、速くドリブルができるようになったりもした。これからも、む中になる赤色の気持ちを大切に、サッカーをがんばっていききたい。

ここまでは、楽しい気持ちの黄色やオレンジ、む中になる気持ちの赤色といった、よい気持ちのことばかりを書いてきたけれど、ぼくの心の中は、それだけではない。今までとはぎやくに、悲しい気持ちの水色や、くやしい気持ちの黒色になることだってある。

ぼくは、自分が悲しい気持ちの水色になるのはどんな時かを考えてみた。思いついたのは、両親におこられた時だ。例えば、ぼくがかたづけをしようとしている時、お母さんに、

「まだやっていないの。早くかたづけをしなさい。」

と言われると、せつかく今やろうとしていたのに悲しい気持ちになつていく。他にもお父さんとサッカーの練習をしている時に、ミスをして、

「集中しろ。」

と言われると、がんばっているのに悲しい気持ちになつていく。

最後に、ぼくは、自分がかやしい気持ちの黒色になるのはどんな時かを考えてみた。思いついたのは、サッカーの試合で負けてしまった時だ。負けでも、たくさん点差がつくと時と、そうでない時がある。点差がつかない試合の方が、あと少しで勝てたのにと、くやしい気持ちになる。でも、もっとがんばって、次こそ勝ちたいという気持ちにもなる。

気持ちには、いろいろな色があることが、改めて分かった。そのどれもが、ぼくにとって大切な気持ちだ。そして、きつとこれから大きくなるうちに、ここに書いた色の気持ちだけではなく、新しい色の気持ちも出てくると思う。ここに書いた気持ちがまざる時だつてあると思う。勝負で負けるとくやしい気持ちがわいてくるけれど、それが、次こそ勝ちたいと、今までよりもむ中になってがんばる気持ち強くさせてくれることがある。くやしい黒色が、む中になる赤色とまざって新しい色が生まれる。そうやって、くやしさを乗りこえた時に生まれる色は、きつとぼくにしか作れないにじ色になるのだと思う。

ぼくは、これからもいろいろな気持ち、いろいろな色を感じながら、がんばって生きていきたい。